

科目名	音楽基礎A3						年度	2026	
英語科目名	Basic Theory of Music A3						学期	前期	
学科・学年	ミュージックアーティスト科 2年次	必/選	必	時間数	30	単位数	2	種別※	講義
担当教員	恒枝賢治		教員の実務経験	有	実務経験の職種		ミュージシャン		

【科目の目的】

音楽理論を深く理解し、実際の作曲、アレンジ、演奏などの実践的なスキルを向上させ、音楽の専門家としての能力を発展させていく。

【科目の概要】

ミュージシャンとして必要なハーモニーとスケールの理論を学ぶ。

【到達目標】

- A. 長音階上の和音、短音階上の和音、平行調・同主調での転調がわかる。
- B. より音楽を深く理解し、最終的に実際の作曲やアレンジや演奏にどう生かせるかを知る。
- C. 長音階上の和音、短音階上の和音、平行調・同主調での転調の範囲に限定した音楽用語と記譜法を学び習得する。

【授業の注意点】

授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう		レベル1 要努力
到達目標 A	長音階上の和音、短音階上の和音、平行調・同主調での転調がわかる		長音階上の和音での転調がわかる		到達目標Aについてさらなる努力が必要
到達目標 B	より音楽を深く理解し、最終的に実際の作曲やアレンジや演奏にどう生かせるかを知る		楽曲を音楽理論を活用して分析できる		到達目標Bについてさらなる努力が必要
到達目標 C	長音階上の和音、短音階上の和音、平行調・同主調での転調の範囲に限定した音楽用語と記譜法を学び習得する		長音階上の和音に限定した音楽用語と記譜法を学び習得する		到達目標Cについてさらなる努力が必要
到達目標 D					
到達目標 E					

【教科書】

決定版音楽理論ワークブックポピュラー音楽を完全理解□

【参考資料】

必要に応じて、プリントを配布する

【成績の評価方法・評価基準】

評価基準はルーブリック評価に基づき、授業内試験60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名		音楽基礎A3			年度	2026
英語表記		Basic Theory of Music A3			学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	音程・音階	音程理解	1 音程復習	音程認識ができる	3	
			2 音階復習	音階構造が理解できる		
			3 聴音練習	基礎聴音ができる		
2	コード復習1	コードトーンの把握	1 コード復習	コード構成が識別できる	3	
			2 和声理論	和声理論が理解できる		
			3 演奏応用	コード進行が弾ける		
3	コード復習2	コードトーンの把握	1 コード展開	ドミナントモーション理解	3	
			2 構成分析	セカンダリドミナント応用		
			3 演奏応用	音楽分析ができる		
4	ドミナント概論	ドミナントモーションの理解	1 ドミナント	長調セカンダリ理解深化	3	
			2 セカンダリ	長調和声実践応用		
			3 ハーモニー練習	自己流アレンジができる		
5	長調のドミナント1	ドミナントモーションの理解	1 長調セカンダリドミナント	短調セカンダリ理解	3	
			2 用法解説	短調でのコード進行作成		
			3 演習課題	短調の曲分析ができる		
6	長調のドミナント2	ドミナントモーションの理解	1 長調セカンダリドミナント	短調セカンダリ応用	3	
			2 クリエイティブ	独自のコード進行創造		
			3 進行実践	即興演奏ができる		
7	短調のドミナント1	ドミナントモーションの理解	1 短調セカンダリドミナント	平行調関係が解明できる	3	
			2 和声展開	同主調の概念理解		
			3 進行実践	ドミナントモーション実践		
8	短調のドミナント2	ドミナントモーションの理解	1 短調セカンダリドミナント	平行調での作曲ができる	3	
			2 応用分析	同主調の楽曲分析ができる		
			3 創作練習	ドミナント代理和音概念理解		
9	平行調ドミナント1	ドミナントモーションの理解	1 平行調分析	代理和音の使用ができる	3	
			2 同主調理論	和声的アプローチ習得		
			3 ドミナント	代理和音を使った作曲		
10	平行調ドミナント2	ドミナントモーションの理解	1 平行調応用	偽終止の概念理解	3	
			2 同主調実践	偽終止を用いた作曲		
			3 ドミナント	和声進行の理解を深める		
11	代理和音の学習1	ドミナントコードの代理	1 代理和音理	偽終止の実践応用	3	
			2 和声応用	独自の終止形創出		
			3 代理和音展	コードパターン認識		
12	代理和音の学習2	ドミナントコードの代理	1 創造性養成	バリエーション理解	3	
			2 実践応用	コード進行の応用		
			3 偽終止理論	コードパターン実践		
13	偽終止技法1	コード進行の把握	1 発展形解説	バリエーション作成ができる	3	
			2 和声実践	アレンジメント作成		
			3 偽終止応用	パターン発展が理解できる		
14	偽終止技法2	コード進行の把握	1 クリエイティブ	進行パターンの創造	3	
			2 演奏テクニック	応用アレンジができる		
			3 偽終止応用	偽終止が応用できる		
15	まとめ	コードパターン	1 コードパターン	コードパターンがわかる	3	
			2 バリエーション	バリエーションを交えて演奏できる		
			3 分析と応用	自らの演奏の分析と応用ができる		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった
備考 等